



くすりとからだ ～インフルエンザについて～

2023年秋号

こんにちは。市立御前崎総合病院薬剤科です。日が暮れると涼しい風を感じる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。今年はコロナウイルス感染症に加えてインフルエンザウイルス感染症も流行しています。そこで今号ではインフルエンザウイルスの薬について紹介します。

抗インフルエンザウイルス薬について

抗インフルエンザウイルス治療薬は、インフルエンザウイルスが増えるのを抑える薬です。発症後、すみやかに投与開始することが大切です。以下によく使われる薬を記載します。

タミフル、オセルタミビル



内服薬でカプセル、ドライシロップがあります。小児や乳児にも使えます。**5日間**内服。

リレンザ



吸入薬で、1日2回、1回2ブリスターを**5日間**使用します。吸入可能であれば、小児にも使えます。

イナビル



吸入薬で、効果が長く続いたため、**1回だけ**の吸入で治療が完了します。吸入可能であれば、小児にも使えます。

ラピアクタ



注射薬で、**1回だけ**の点滴で治療が完了します。重症化の恐れがある場合は連日の投与も可能です。小児にも使えます。

小児・未成年者がインフルエンザにかかった時は、異常行動の発現の恐れがあります。抗インフルエンザウイルス薬の種類や服用の有無によらず、少なくとも治療開始後2日間は小児・未成年者を一人にしないよう、注意してください。

インフルエンザの予防について

①基本的な感染対策

- ・マスクの着用
- ・手洗い等の手指衛生、換気
- ・人と人との距離の確保

②予防接種

インフルエンザワクチンの予防接種には、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性が高い方には効果が高いと考えられます。

症状があるときには「咳エチケット」を心がけましょう



参考資料:

インフルエンザ診療マニュアル2022-2023年シーズン版(第17版)

令和5年度 今シーズンのインフルエンザ総合対策について | 厚生労働省 (mhlw.go.jp)